高岡市民病院だより
Heart
Hospitality
Excellent
Amenity
Relationship
Trust
No.62
JAN. 2023

院長
藪下 和久

皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。
令和2年から始まった新型コロナウィルス感染症は未だ収束することはなく、本年においても昨年同様、感染状況が継続していくものと思われます。本院は自治体病院、感染症指定医療機関として、陽性患者の入院受け入れ、発熱患者への外来対応、ワクチン接種等、種々の感染症対策を3年間にわたり継続してまいりました。With coronaにおける感染対策のあり方を踏まえつつ、本年も本院の責務を果たすべくコロナ感染拡大防止対策を継続して行っていく予定です。高岡医療圏内の公的病院、医師会、近隣医療機関の皆様におかれましては、これまで同様のご協力ご支援をお願い申し上げます。
本院は政策的医療を行いながら、急性期医療に機能特化した病院を目指してきました。昨年は妊産婦を対象としたウィメンズ病棟開設に続き、MRI装置を更新しました。今後とも患者さんのニーズに応えていきたいと考えています。
本院が抱える課題の一つに高齢者のみの世帯、高齢者独居の世帯が増加してきていることに起因した、在宅復帰が困難で退院できない患者さんへの対応が挙げられます。地域医療支援病院として、急性期治療以後のリハビリ期、回復期の治療、在宅訪問医療に関し、皆様方との連携をこれまで以上に強化してまいりたいと考えています。本年もご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

Heart
心のかよいあう医療を

【題字について】

Hospitality	こころのこもった接遇
Excellent	良質な医療で健全経営
Amenity	快適な療養環境
Relationship	人材を育成しよりよい人間関係
Trust	地域との信頼関係の構築

患者の皆様の権利を尊重します

本院では“生命の尊重と人間愛”を基本理念に、患者の皆さんと協同して最良の医療を提供できるよう以下の権利を尊重します。

1. 平等で最善の医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が守られる権利
3. 説明にもとづき医療行為を選択する権利
4. 診療情報を得る権利
5. プライバシーが守られる権利

新年のご挨拶

2023 卯
HAPPY NEW YEAR!

理事（経営戦略担当）・副院長
伊藤 博行

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の発生から早3年が経ちました。ワクチン接種も進み、新規治療薬も使用されるようになりましたが、感染者数は収束することなく増減を繰り返しています。今後の状況についてはまだ見通せませんが、今年も基本的な感染対策を守り、皆様が安心できる環境を保てるように努めていきたいと思います。

さてそのような中、昨年は3年ぶりに「ふれあい健康フェスティバル」を開催し、地域の皆さんと健康を通じて交流を図ることができました。また、診断能の向上目的に高精度のMRI装置への更新を行い10月より稼働しました。

本院は、今後も市民の皆さんの健康維持を図るとともに、病院受診時には疾患の診断、治療など最大限にサポートさせていただきたいと思います。本年も皆様のご健康をお祈り申し上げます。

副院長・地域医療部主任部長
福島 亘

新型コロナウイルス感染症の収束を確認できぬまま新年を迎えることとなりました。当院は高岡医療圏の感染症指定医療機関として、コロナ診療の最前線で診療を行いながら、救急をはじめとした一般診療も並行して行わなければならない状況が続いています。こうした中ではありますが、本年度、当院では産婦人科病棟を改修しウィメンズ病棟としてスタートするとともに無痛分娩も開始いたしました。ロボット支援手術では、これまでの前立腺癌、婦人科疾患に加え大腸癌に対しても導入し、MRI撮影装置の更新も行っております。これからも皆様の要望に応えられますよう、切磋琢磨していくつもりでございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

副院長・看護部長
米山 美智代

私たちは、病気の影響で持てる力を発揮しにくくなった患者さんの力を高め、食べる力や歩く力を維持し、もとの生活の場に戻れることを目標にしています。そのために、ご家族や地域の医療福祉関係者との連携は不可欠なのですが、面会制限によりその機会が減っているのが現状です。電話やオンライン面会を活用し、患者さんの状態を関係の皆様と共有する機会を増やすことが課題です。なにより患者さんの人生観や価値観、希望に寄り添うことを大切にし、患者さんにとっての最善を実現したいと考えています。患者さんやご家族から「市民病院を選んで良かった」と思って頂けるように、職員一丸となって努力していきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

専門資格の紹介 がん病態栄養専門管理栄養士

村上（むらかみ） 真弓（まゆみ）
栄養管理科主査

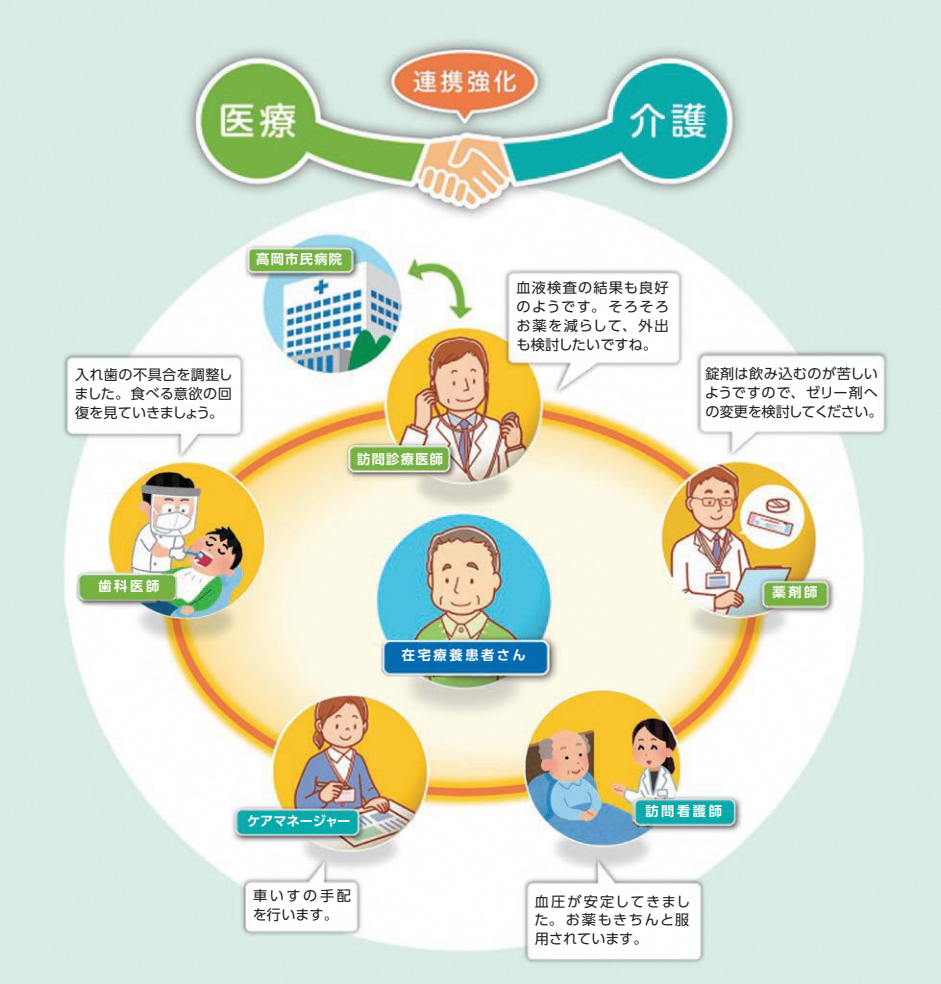
がん患者さんを「食」でサポート

がん患者さんは病気そのものや治療による影響、精神的な苦痛など様々な原因により、食欲不振や体重減少など栄養管理が困難になる場合があります。がん病態栄養専門管理栄養士は、患者さんの治療状況・生活背景・個人の嗜好に考慮し、患者さん一人ひとりに合わせた食事の提案を行っています。毎日の食事が、生活の楽しみにつながるよう患者さんに寄り添った食事の提案を心がけています。

高岡多職種ネット（バイタルリンク）のご案内

高岡多職種ネットは、高岡市医師会在宅医療支援センターが管理運営し、令和4年5月より本稼働したインターネット上の多職種間情報共有システムで、本院も利用登録しています。

このシステムは、高岡市にお住いの在宅療養患者さんについて、緊密な連携が必要な場合に、パソコンやタブレットなどの端末を用いて、医師、看護師、ケアマネージャー、訪問看護ステーションなどの多職種間の情報交換・共有を行うことができます。患者さんの状態変化を多職種で共有することにより、患者さんへの一貫した対応が可能となり、治療・ケアの質が向上します。ぜひご利用ください。（市外在住の患者さんを登録したい場合や、その他ご不明な点等は別途高岡市医師会へご相談ください）



※帝人ファーマ（株）地域包括ケア関連事業サイト「ささえる」から抜粋

高岡多職種ネット（バイタルリンク）ご利用の流れ

初めて申し込む方は

高岡市医師会へ電話し高岡多職種ネット（バイタルリンク）の利用希望を伝え、参加申し込み手続きを行うと、施設名、利用者等が登録されます。

既に利用登録がお済みの方は

訪問診療医師（かかりつけ医）または高岡市民病院（看護師、入退院支援担当者等）に、連携の必要な患者さんを高岡多職種ネットに登録したいと相談します。

訪問診療医師（かかりつけ医）または高岡市民病院は、在宅療養者本人の同意を得て「高岡多職種ネット患者登録申込書」を高岡市医師会へ提出します。

およそ2～3日で患者さんとチームメンバーが高岡多職種ネットに登録され、情報交換できるようになります。

FAXの送信先をお間違えないように　～地域医療部からのお願い～

FAXを用いて本院へ情報提供していただく際に、本院の代表FAX番号（26-2882）に送信されてくることがあります。早急に対応しなければならないケースもありますので、次のようなお問い合わせ、ご連絡につきましては、地域医療部へFAX送信していただきますようお願い申し上げます。

◆紹介状、各種サマリー、情報提供書
◆入院時情報提供書、主治医ケアマネ連絡票
◆介護施設・高齢者向け住宅等の空室・空床情報　など

地域医療部　FAX：0766-23-0237
（FAX番号の登録（変更）をお願いします）

PICK UP

2022.3月開催「高岡市民病院・医師会合同症例カンファレンス」より

COVID-19と肝機能障害

消化器内科
渕野（ふちの） 真代（まよ）
医長

COVID-19の一部重症例に肝機能障害を伴うことが知られています。国の手引きには肝機能障害が重症化リスク因子に含まれていませんが、本院で入院加療を行った患者（2020年4月～8月入院　全366症例のうち小児22例、採血未実施12例除外した332症例）を対象に検証を行いました。

1. COVID-19重症度分類と本院の方針

国における新型コロナウイルス感染が確認された方の重症度分類は、SpO2と臨床状態により“軽症”“中等症Ⅰ”“中等症Ⅱ”“重症”に分けられます。

「軽症」はSpO2が保たれ、肺炎像も認めない症例で、本院では基礎疾患や社会背景により自宅又は宿泊療養施設での療養、あるいは入院治療の判断をしています。肺炎像があれば「中等症」となり、SpO2が保たれていれば中等症Ⅰ、酸素投与を要する場合は中等症Ⅱとなります。本院では中等症以上については原則入院で治療を行います。酸素マスク6L投与でもSpO2が保てず人工呼吸器管理を要する症例の患者は「重症」となり高次医療機関へ転院となります。

COVID-19 重症度分類

	軽症	中等症Ⅰ 呼吸不全なし	中等症Ⅱ 呼吸不全あり	重症
SpO2	≧96%	93%-96%	≦93%	
臨床状態	呼吸器症状/呼吸困難なし 肺炎所見なし	呼吸困難 肺炎像あり	酸素投与 肺炎像あり	ICU入室 人工呼吸器管理 肺炎像あり
当院の方針	自宅 or 宿泊療養施設 or 入院	原則入院	原則入院	転院搬送

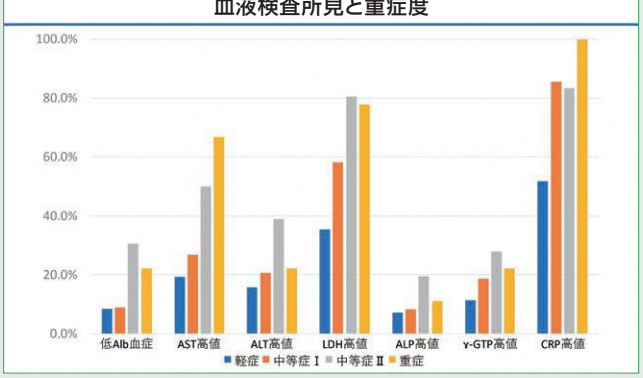
3）新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き第5.3版：厚生労働省HPより

2. 検証結果

①血液検査所見と重症度

全症例の入院時の肝機能検査ではAST高値を90例（27.1％）、ALT高値を68例（20.5％）認め、AST、ALT、LDH、AlP、GGTP、CRPはいずれも重症化するにつれて高値を示す割合が高くなる傾向にありました。

血液検査所見と重症度

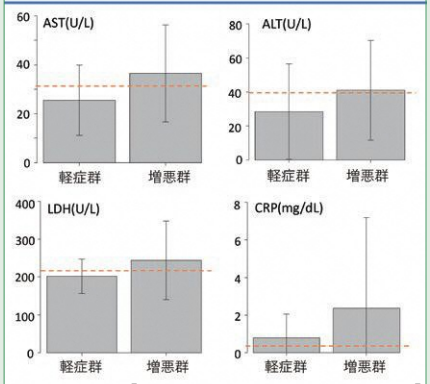


②軽症群と増悪群の比較

今回の検証で、各因子が増悪予測因子となり得るかを解析するため、軽症のまま経過した“軽症群”と、入院時/初診時に軽症でも経過中に中等症Ⅰ以上に増悪した“増悪群”を比較検討しました。

各群における検査結果の実測値をみると、AST、ALT、LDH、CRPすべて軽症群に比べ増悪群で値が高いという結果でした。

軽症群/増悪群の血液検査所見



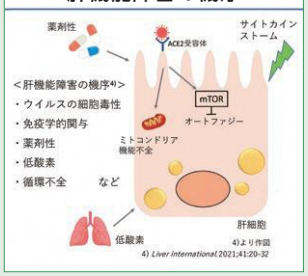
※赤線は基準値上限【AST＞31、ALT＞40、LDH＞210、CRP＞0.25】

3. 考察

肝機能障害には、さまざまな機序が推察されています。

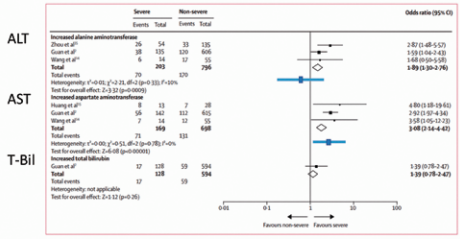
COVID-19の感染に関しトランスアミナーゼ上昇が増悪予測因子となり得ると思われますが、症状には表れない範囲でサイトカインストームや循環不全などを来しており、それが発症早期のAST上昇、さらにその後の増悪につながるのではないかと考えました。

肝機能障害の機序



考察：肝機能障害と重症度

➢ COVID-19患者の14-53%でトランスアミナーゼ上昇を認めた[5)]。



➢ 重症例でAST・ALT高値である。

➢ AST優位の上昇が多く、サイトカインストームや低酸素血症の影響と推察されている[6, 7)]。

5) Lancet Gastroenterol and Hepatol 2020;5:667-678
6) Liver International. 2021;41:1988-1998
7) Hepatology. 2021;73(3):890-900

New face 新任医師紹介

生水 貫人（しょうず かんと）

産婦人科／医長
10月1日入職
専門：産婦人科一般
出身：石川県金沢市
資格・学会：日本産科婦人科学会専門医、日本周産期・新生児医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本臨床細胞学会、日本超音波医学会、日本メディカルAI学会公認資格

Doctor's Side

Q これまでの経歴を簡単に教えてください。

A 2015年、富山大学の産科婦人科学教室に入局し、幾つかの病院を回りました。19年に国立がん研究センターに国内留学し、博士号を取得しています。

Q 高岡市民病院での日々はいかがですか？

A ここは県内でも数少ない腹腔鏡手術を積極的に行っている病院で、技術も高い。そんな環境で手術をすることができ、充実した日々を送っています。

Q 産婦人科医として心がけていることは？

A 患者さんに安心感を与えられるように、懇切丁寧な説明を心がけています。

Q 休日の過ごし方や好きな言葉を教えてください。

A 息子と遊んだり、好きな将棋の番組などを見ています。羽生善治さんの座右の銘「運命は勇者に微笑む」には共感できますね。

島田 なつみ（しまだ）

産婦人科／医師
10月1日入職
専門：産婦人科一般
出身：富山県黒部市
資格・学会：日本産科婦人科学会

Doctor's Side

Q これまでの経歴を簡単に教えてください。

A 医者5年目、産婦人科3年目で、現在、後期研修中です。富山大学附属病院、厚生連高岡病院、糸魚川総合病院を経て、2022年10月より当院です。

Q 産婦人科医になろうと思った理由は？

A もともと赤ちゃんが好きで、その誕生に立ち会えたらという思いでしょうか。実際は何の問題もなく生まれてくるお子さんだけではありませんので、感動よりはドキドキしながらというのが実情です。

Q 休日はどのように過ごされていますか？

A インドア派なので、特に何をするでもなく、家でごろごろしていることが多いです（笑）。

Q 今後の目標をお聞かせください。

A 後期研修が終わると専門医試験が控えていますので、産婦人科専門医を目指して頑張ります。

小川 晃寛（おがわ あきひろ）

内科／医師
11月1日入職
専門：腎臓病、リウマチ、一般内科
出身：山梨県甲州市
資格・学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本リウマチ学会、日本透析医学会

Doctor's Side

Q これまでの経歴を簡単に教えてください。

A 入局1年目に金沢大学附属病院、2年目は金沢医療センター、そして福井県済生会病院での半年間を経て現在に至ります。

Q 医師、そして腎臓内科を志した理由は？

A 中学生の頃に祖父が亡くなったのですが、その際、懸命に治療・加療してくださった先生たちの姿を見て、自分も――と思ったのが最初です。

腎臓は、全身との結びつきが強い臓器です。私は一つの臓器にとらわれることなく全身を診ることのできる医者になりたいと考えていましたので、そうした希望に一番合致していたのが腎臓内科でした。

Q 休日の過ごし方や好きな言葉を教えてください。

A 買い物ですかね。家でじっとしているより、ふらっと外に出かけることが多いです。好きな言葉は「努力」でしょうか。また周囲の人たちに対する「感謝」の気持ちは常に忘れないようにしています。

11月13日(日)
ふれあい健康フェスティバルを開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年度以降開催を見合わせてきた「ふれあい健康フェスティバル」を、3年ぶりに開催しました。開場時刻が近づくにつれ雨が大きくなってくるというあいにくの天気となり、バックヤード探検隊で予定していた「ヘリポート見学」は外に出ることができず、参加者から残念だったという感想が聞かれました。来場者には感染防止対策として入口で体温を測り、健康状態について問診票を書いていただきました。110人の方が来場され、60歳代以上が約6割と、健康に関心の高い高齢者の方が多く来られました。

〈ステージ〉

今回の出演者は共に高岡市出身の、マジシャンコンプレッサー氏、講談師の神門久子氏の2名です。

コンプレッサー氏は、トランプやボール、ロープなどを使い、お客さんを交えた楽しいマジックショーを披露、ドキドキハラハラの脱出マジックもあり大いに盛り上がりました。

高座におかれた釈台の前に座り、張り扇を叩いて調子よく一節を語る講談を、初めて聞いたという方も多くおられました。神門久子氏の笑いを取り入れたお話に魅了されました。

院長によるミニ講演「がん検診のすすめ」では、高岡市のがん検診率が低いこと、遺伝性の乳がんや大腸がんもありますので、予防のためにこまめに検診をしましょうというお話でした。

【演目】「西行鼓々滝」
「池波正太郎作 伊勢屋の黒助」

藪下院長によるミニ講演「がん検診のすすめ」の様子

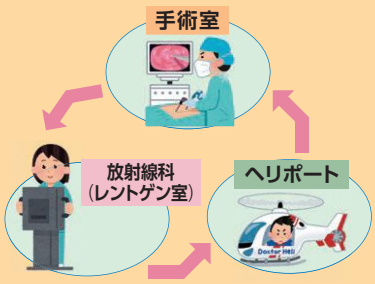
〈フロアブース〉

楽しみながら健康管理意識を高められるよう健康チェック、相談コーナー、脳トレクイズ、体力測定など様々な体験コーナーがありました。

また医薬品を使ったアロマハンドジェル作り、石鹸作りコーナーも人気がありました。メッセージボードに寄せられた”私の考える元気の秘訣”は、「食べる」「寝る」そして「笑うこと」や「新しいことへの挑戦」など、読んでいるだけで元気が湧いてきました。これらを参考にして明るく過ごしていきましょう。

〈バックヤード探検隊〉

普段見ることのできない手術室やレントゲン室、ヘリポートをグルっと見学してくるコースで、手術室では手術の様子を興味津々に聞いていました。レントゲン室では一般撮影室、CT装置の部屋を見学して映像の違いの説明がありました。



雨のためヘリポートには出られませんでしたが、6階からヘリポートを眺めながら飛来するヘリコプターの種類についてパネルを使い詳しく説明しました。

Heart 高岡市民病院だより　No.62　2023年1月発行
発　行：広報委員会　〒933-8550　富山県高岡市宝町4番1号 TEL.0766-23-0204　FAX.0766-26-2882
©TAKAOKA Hospital